

(一社) 練馬環境造園協会
会 員 各 位

令和 8 年 4 月 吉日
(一社) 練馬環境造園協会
理事長 荻 野 淳 司

広報担当理事 田仲秀基
旅行幹事 小西修司
中島 仁

『令和 8 年度研修旅行』のお知らせ

謹啓 時下益々のご清祥のこととお慶びもうしあげます。
平素は当協会の運営につきましては格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、この度令和 8 年度の研修旅行といたしまして「栗林公園と金毘羅詣り、五台山竹林寺と
牧野植物園」を下記の日程にて企画いたしましたのでご案内致します。
会員の皆様にはお忙しいとは思いますが、何卒多数ご参加くださりますようお願い致します。

記

実施年月日 : 令和 8 年 7 月 9 日 (木) ~ 7 月 11 日 (土) 二泊三日
参加費用 : 一人 120,000~130,000 円 (調整中)
集合場所 : 羽田空港 7 月 9 日 (木) 午前 8 時 20 分集合
(詳しい集合場所は後日連絡致します。)

工 程

7 月 9 日 羽田空港 9:20 発...高松空港...昼食...栗林公園...15:00 紅梅亭(泊) 着後...金毘羅詣り

7 月 10 日 ホテル 9:00 発...満濃池...大歩危...昼飯...かずら橋...高知城...17:00 西鉄イン(泊)

7 月 11 日 ホテル 8:30 発...桂浜...五台山竹林寺...牧野植物園...昼食...高知空港...17:20 羽田空港

連絡先 : ㈱小西造園土木 小西 宛 FAX 03-3924-1608

※御手数ですが予約等の都合上出欠の確認を 4 月 24 日 (金) までに FAX 願います。

切り取らないでこのまま送ってください

研修旅行に 参加 欠席 します。(どちらかに○をつけてください。)

会社名 _____

参加者氏名 _____

参加者氏名 _____

参加者氏名 _____

栗林公園

(株)アティ 中島仁 加藤晃司
(株)豊和緑地 豊田弘 小林太郎 長瀬裕司

概要と歴史

栗林公園は香川県高松市にある公園で、国の特別名勝に指定されている文化財庭園です。文化財公園としては日本最大の広さになります。

成り立ちとしては、地元の豪族が自身の隠居所として作った庭が起こりとされています。その後江戸初期に湧き水や池を利用して「南湖」一帯が造成された後、高松藩の藩主である松平家が回収を重ね五代藩主の頼恭の時代に100年越しの完成を迎えたとされています。尚、様式としては池泉回遊式庭園になります。

感想等

栗林公園という名前ですが、松が中心の公園で栗の木はほとんどありませんでした。

名前の由来は、「かつて栗の木が群生していた」「中国で木が生い茂った里山を栗林と呼ぶから」等、諸説あり定かでは無いそうです。

とても面白いものとしては公園の中に「菊月亭」と呼ばれる茶屋があり、その傍にある「根上り五葉松」と呼ばれるものがあり園内屈指の名木と言われる松があります。クロマツの台木に接ぎ木して仕立てられた松で、当時の高い園芸技術を伝える貴重な歴史的遺産でもあります。

栗林公園の見所の一つに箱松と呼ばれる松もあります。屏風松と呼ばれる松と合わせることで立体感を演出する松の木で、名前の通り離れたところから見ると、箱型に整えられています。

写真は箱松を横から見た図になりますが、枝の仕立てによって、トンネルの样になっているちょっと変わった面白い景色を楽しむことができます。

園路を歩くと立派な仕立ての松が目立ちますが、自然な樹形の松もたくさんあり、様々な風合いの木を楽しむことができます。

松の内訳としては、手入れ松が約千本、自然松が約四百本の計千四百本になります。

まとめ

園路を歩きながら様々な視点から見ることで大きく印象を変えつつも、全体でみると非常にまとまった回遊式庭園の一つの完成形として実に見応えのある場所で、再び訪れ今回見切れなかった部分も含めてもう一度見て回りたい様な場所でした。



金毘羅宮

アゴラ造園(株) 荻野淳司 小島孝志 香取太/(株)小関田中園 田中則雄/(株)本橋造園 本橋武司

はじめに

今回の四国研修旅行では、造園協会の研修の一環として香川県の金刀比羅宮を訪れました。歴史ある神社や周辺の町並み、伝統建築を見学し、その歴史や文化に触れるとともに、今後の業務や活動の参考とすることを目的として参加しました。

概要・感想等

1. 大門

金刀比羅宮は古くから「こんぴらさん」として親しまれ、海上安全や商売繁盛の神様として全国から多くの参拝者が訪れます。参道には歴史ある町並みが続き、石段を登りながら風情ある景観を楽しむことができ、石畳や石垣、周囲の樹木が調和した景観は、長い年月を経ても大切に維持されており、多くの参拝者を迎える空間づくりの大切さを感じた。

大門は365段目に位置し、1年の日数と同じ段数にあることから、ここをくぐると神域に入るとされている。今回は参加者の約半数が大門までタクシーを利用し、若手もさりげなく一緒に乗ったため、「若いのだから下から歩け」と先輩方から冗談交りに声を掛けられる場面もあり、終始和やかな雰囲気の中で階段を登りました。

2. 御本宮

御本宮までの785段は想像以上に長く、登り切った時の達成感は格別でした。御本宮は約1000年前に建立され、現在の社殿は約100年前の改修をしながら大切に受け継がれており、釘を一本も使わない伝統工法で造られていることに驚かされました。境内からの眺めも素晴らしく、時間の都合で奥社まで参拝することはできなかったが、次回訪れる機会があればぜひ足を延ばしたいと思います。

今回は体力面などの都合で御本宮までたどり着けなかった諸先輩方もおられたため、その分も含めて皆さんの健康と協会のさらなる発展を願いながら参拝しました。

タクシー組の若手は「歩いていないから」と写真から外され、笑いの絶えない研修でした。

終わりに

金毘羅宮の歴史や伝統建築について実際に見て学ぶことができ、写真や資料だけでは分からない魅力を感じることができました。久しぶりの二泊の研修で、親睦も深まり、有意義な時間となりました。この経験を今後の仕事や活動に生かしていきたいと思いました。



満濃池と大歩危

株式会社植物環境リサーチ 加藤 樹

はじめに

今回の研修では、香川県の満濃池と徳島県の大歩危を訪れました。
それぞれの場所で、日本の歴史や土木技術、そして雄大な自然について学ぶことができ、
とても有意義な研修となりました。

概要・感想等

満濃池は、日本最大級の農業用ため池であり、約1300年の歴史を持っています。
特に、弘法大師・空海が修築に携わったことで知られ、現在でも多くの農地を
潤す重要な役割を果たしています。

主な修築・整備における人数について

821年の空海による再築：史料に具体的な人数
は明記されていませんが、非常に多くの人々が
協力して短期間で成し遂げたと伝えられていま
す。852～853年の修復：讃岐国守・弘宗王
による工事で、人夫 19,800人 を動員。

明治2～3年（1869～1870年頃）の復旧
高松藩などの支援による工事で、役夫

144,900人 を動員。など今まで多くの人の手
で守られ今現在もその役割を果たしています。

実際に広大な池を目の前にすると、当時の人々が
どれほどの苦労を重ねて築き上げたのかを
実感しました。

大歩危は、徳島県を流れる吉野川が約2億年もの
長い年月をかけて結晶片岩を侵食してできた
渓谷です。同じような地質は埼玉県の長瀬にも
見られ、日本では大歩危・小歩危と長瀬が代表的
な例とされています。どちらもプレートの
沈み込みによってできた三波川変成帯の岩石が地表
に現れ、川の浸食によって現在の美しい渓谷
が形成されました。



終わりに

今回の研修を通して、歴史的な土木遺産と壮大な自然の両方に触れることができました。
満濃池では人々の努力と技術の重要性を、大歩危では自然環境の壮大さとその価値を学びました。
とても充実した研修となり、多くの学びと思い出を得ることができました。

牧野植物園

池田園緑化 池田英夫・小西造園土木 小西修二・田中造園 尾崎誠

はじめに

今回の四国研修旅行では、高知市五台山にある高知県立牧野植物園を見学しました。同園は、高知県出身の植物分類学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰し、その研究精神を伝える植物園です。

概要・感想等

園内では、牧野博士ゆかりの植物をはじめ、四国や高知に自生する植物、薬用植物など多様な植物が環境に合わせて展示されていました。特に印象に残ったのは、展示施設と屋外の植栽が分断されず、一つの学習同線として構成されていた点です。牧野博士が残した植物図や標本、研究資料を見た後に実物の植物を観察できるため研究成果と現在の植物を結びつけて理解することができました。

また、五台山の地形や既存の樹林をいかした園路は、植物園そのものが一つの景観として成立していました。樹木の高さや枝張り、下層植生、日照条件など場所により異なり、それぞれの植物に適した環境を作る工夫がみられました。造園・樹木管理の視点からも、植物を単体で扱うのではなく、周辺環境や将来の成長まで考慮して維持管理費する必要性を改めて感じました。

今回の見学を通じて、植物園は鑑賞のための施設ではなく、調査研究、希少植物の保全、教育普及を担う社会的施設であることを理解しました。植物に関わる仕事では、経験に頼らず、名称や性質を確認し、観察した内容を記録して共有することが、安全で適切な管理につながると考えます。



終わりに

牧野植物園では、植物を見るだけでなくその特徴を読み取り、記録し、守り伝えるという考え方を学ぶことができました。今回得た視点を、今後樹木管理や造園作業における観察、判断、記録へ生かしていきたいと思えます。